

里山を利用したきのこ通年発生技術の確立と体系化

山形県森林研究研修センター

研究のねらい

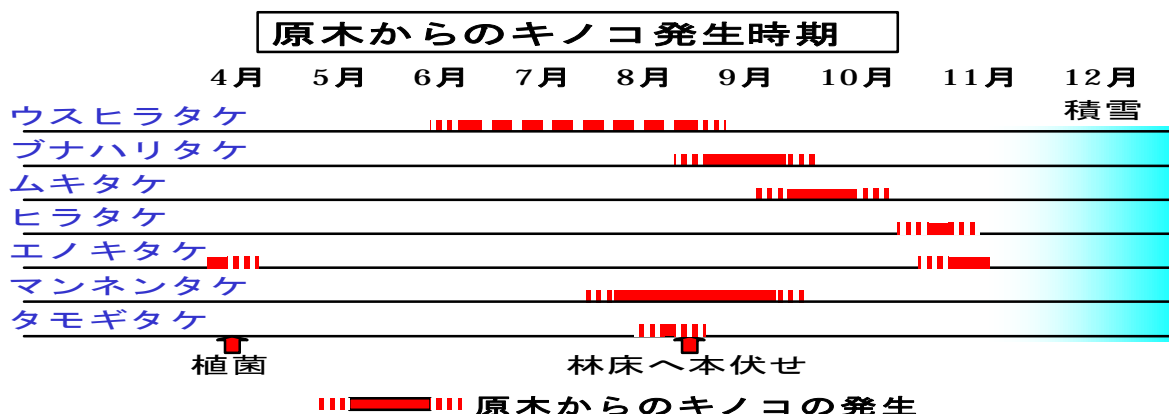
里山利用による中山間地の活性化を図るため、きのこ栽培を里山における自然体験やグリーンツーリズムなどの通年型プログラムとして活用できるよう、きのこ固有の発生時期を利用した多品目きのこの組み合わせを体系化し、里山を利用したきのこ通年発生技術を確立した。

研究の成果

- ①山形県中央部に位置する朝日町の里山林（標高 200m：広葉樹林床）において、きのこの原木栽培を行い品目別の発生時期の調査をした。
- ②種菌は県内で購入できる市販菌で、購入した長さ 1m のミズナラ原木に植菌した。4月から約 4ヶ月間を当センター内で仮伏せした後、栽培地の里山林床へ本伏せをした。本伏せの方法は全て地伏せとし、翌年からの発生のピーク時期を中心に発生状況を調査した。
- ③年間の発生状況は、ウスヒラタケが断続的ではあるが、長期間良好に発生した。エノキタケとタモギタケは発生がまばらであるが、ブナハリタケ等は比較的良好な発生であった。これらの品目の市販菌株を組み合わせ、林床できのこの栽培を行なうと、断続的な期間があるものの同一里山林でも、きのこ通年発生が行なえることがわかった。



発生中のウスヒラタケとマンネンタケ



問い合わせ先：森林資源部 TEL 0237-84-4301 e-mail yshinnrinnse@pref.yamagata.jp